

重点取組分野	元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	学年重点目標の実現に向けた、教材研究を進め、学年で評価基準の見直しを行い、各学年に応じた学習の基礎基本の力を育てます。重点研究の中で伝え合う力の向上を目指します。	重点研究の中で「言語能力」「自分づくりに関する力」に重点をおき、伝え合うことができる子どもの育成に努めた。 朝授業で、国語・算数に重点をおいて取り組んできた。基礎・基本・反復練習を行い、個々の力を上げることができた。	A
豊かな心	5校ブロックの人権に対する意識を高めるために、授業を通して子どもの個の育成に取り組みます。「特別な教科道徳」の時間だけでなく教育活動全体を通して、互いに認め合う教育活動に取り組み、いろいろな相手を思いやることのできる子どもを育てます。	5校ブロックの人権に対する意識を高めるために、授業研究会を通して子どもの個の育成に取り組みました。「特別な教科道徳」の時間だけでなく教育活動全体を通して、互いに認め合う教育活動に取り組み、いろいろな相手を思いやることのできる子どもを育てました。	B
健やかな体	体育・健康プランに基づいて「なわとび」を取り上げます。学級全員での長縄跳び、個人での短縄に取り組み、ペア学年の交流を通して体力向上を目指します。養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を行います。	体育・健康プランに基づいて「なわとび」を取り上げたが、ある時期の取組に集中し、個々の意欲付けには至らなかった。 学年により取り組みにばらつきがあり、来年度の課題となった。	B
特別支援教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画についてや特別な支援が必要な子どもについての校内研修を行い理解を深めます。 全教職員がチームとして指導・支援を行えるよう情報交換を密に行い、共通理解を図ります。	校内研修を行い、支援を必要とする子どもの理解を深めてきた。チームとして、指導・支援を行えるように準備を進めてきたが、子どもの実態に合わせた指導・支援を、適宜実施することが難しかった。	B
児童指導	YPアセスメントを活用しながら、子どもたち一人一人についての理解を深めていけるよう努めます。児童支援専任や児童指導部を中心に情報を共有し、チームとして対応していきます。状況に応じてのケース会議を開き、児童理解に努め、全職員での共通理解を図ります。	年に2回YPアセスメントを実施して、その結果を基に学級の状況を把握し、児童の指導に生かすことができました。状況に応じて、外部人材も参加する形でケース会議を開き、具体的な対応方法について話し合うことができました。	B
地域連携	地域共同防災訓練を計画し、地域の一員としての自覚を育てます。 また、教育ボランティアを募集し、まちの力を生かし、まちを大切にすることを育みます。保護者や地域の見守り隊の協力を助け、児童の登下校を含めた安全の強化に努めます。	地域共同防災訓練を計画し、地域の一員としての自覚を育てるよう努めた。地域との連携については改善が必要である。 教育ボランティアを活用し、まちの力を生かして、まちを大切にすることを育むに努めた。 保護者や地域の協力を助け、普通遊び、ふれあいタイム、交通安全教室を実施し、児童の安全強化に努めた。	B
いじめへの対応	児童の心の動きをとらえるため、カウンセリングスキルに関する研修を行います。また、「特別な教科道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自らの考えを深める力を育みます。	毎月、いじめ防止対策委員会を開催した。子ども同士のトラブルの共有化とその対策方法について委員会で考えた。また、教師一人で物事に対応するのではなく、複数の目で対応するように心がけ、実行した。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	主幹教諭を中心とした校内組織の改革を行い、すべての教員の授業力向上をめざします。また、校内の経験豊富な教職員から学ぶことができるような初任者研修、メンター研修などの職員研修を計画します。	授業力の向上を目指し、初任研の授業力向上の各組織が連携して活動することで、初任者研修が充実した内容になった。しかし、メンター研修に課題が残ったため、メンターの役割をしっかりと位置付けていく必要があると感じた。	B
ブロック内評価後の気付き	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に、本校で公開授業、合同授業研究、小中交流事業等を行った。小学校や中学校の学校間で相互理解ができた。特に、授業研を通して、個に対する取り組みなどの話から、中学校では、個の様子からどんな取り組みができるのか具体的な話になった。 その他に、6年生の中学見学、生徒指導専任からの話を聞く会を通して、小中の規範意識の育成と連携を図った。	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に活動を計画したが、感染防止の観点から、公開授業、合同授業研究が中止となり、小中交流事業等も縮小しての実施となった。来年度も感染症対策が必要になると思われるので、対策をした上でどのようなブロック間の交流ができるかを、年度当初から検討していく必要があると思う。	
学校関係者評価	・授業参観にて、子どもたちの創意工夫や明るい笑顔で助け合う姿を見て安心した。こうした教育環境が継承されていくことを願う。 ・学年に応じた取り組みが見られ、成長を感じられた。 ・子どもたちの生き生きと活動する姿がよかった。	・今年度は、コロナでなかなか、ふだんの様子や行事を見ることができませんでしたが、先生方がいろいろ工夫されてがんばっていらつやと理解している。 ・授業については、以前に比べて補助シートや映像などでとても分かりやすくなっていると思う。 ・地域の見守りたいの方と保護者の皆さんがもう少しつながれるような策があるとよいと思う。	
中期取組目標振り返り	学年重点目標に実現に向けて、重点研究の中で「言語能力」「自分づくりに関する力」に重点をおき、伝え合うことができる子どもの育成に努めた。「言語能力」「自分づくりに関する力」を中心に、伝え合うことを育成することができた。 体育・健康プランに基づいて「なわとび」を取り上げたが、ある時期の取組に集中し、個々の意欲付けには至らなかったため、年間を通して取り組めるように計画して取り組んでいく。	通常ではない中、感染症対策など日々の対応を、主幹教諭を中心に校内組織の改革を進んで行い、発信することができた。重点研究会では、授業研が縮小されたが、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。 しかし、体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが実施することができなかった。そして養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることも課題となったため、今後計画して取り組んでいく。	

重点取組分野	2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	重点研究の中で「言語能力」「自分づくりに関する力」に重点をおき、伝え合うことができる児童の育成に努めます。授業実践を通して、児童の実態に合ったカリ作りを行いました。朝授業を行うことにより、基礎基本、反復練習を通して力の向上を目指します。	日々授業の中で「言語能力」「自分づくりに関する力」に重点をおき、伝え合うことができる児童の育成に努めた。授業実践を通して、児童の実態に合ったカリ作りを行いました。朝授業を行うことにより、基礎基本、反復練習を通して力の向上を目指した。	A
豊かな心	5校ブロックで人権に対する共通意識をもてるよう研究授業や研修を行います。人権意識を高めるために授業を通して子どもの個の育成に取り組みます。「特別な教科道徳」の時間だけでなく他教科やあいさつ運動等の教育活動を通して、互いに認め合い、相手を思いやることのできる子どもを育てます。	コロナの状況下ということもあり例年とは少し違った形でしたが、金沢ブロック授業研を行ったことは大変ありがたかった。一人ひとり様々な事情を抱える児童がいる中で、色々な先生方の手立てやサポートの仕方を知れたことは、人権教育を進めるうえでとても勉強になった。六浦中学校とのあいさつ運動も、あいさつを意識するよききっかけになった。	B
健やかな体	体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指します。養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させるために、特活「学級活動」に合わせて取り組めるようにしていきます。	体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが、感染症予防対策のために、実施することができなかった。養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることができなかった。課題となった。	C
特別支援教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、特別な支援が必要な子どもの現状について校内研修を行い理解を深めます。 全教職員がチームとして指導・支援を行えるように、特別支援カウンセラーを中心に情報交換を密に行い、共通理解を図り、適宜指導・支援を行います。	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成した。校内で児童理解研修を行い、個々の子どもの実態や支援方法の共通理解を深めた。 週1回の打ち合わせで、各学年の状況、児童の実態や変容を伝える機会を作った。全教職員がチームとして子どもたちに関わる工夫を、年2回YPアセスメントを実施して、その結果を基に学年・学級の状況を把握し、児童の指導・支援に生かすことができた。状況に応じてケース会議を開き、具体的な対応方法について話し合うことができた。また、打ち合わせ時に該当児童の理解を深める時間を設けた。	A
児童指導	YPアセスメントを活用しながら、子ども達一人ひとりに関する理解を深めていけるよう努めます。児童支援専任や豊かな心部会を中心に情報を共有し、チームとして対応していきます。状況に応じてのケース会議を開き、児童理解に努め、全職員での共通理解を図ります。	年に2回YPアセスメントを実施して、その結果を基に学年・学級の状況を把握し、児童の指導・支援に生かすことができた。状況に応じてケース会議を開き、具体的な対応方法について話し合うことができた。また、打ち合わせ時に該当児童の理解を深める時間を設けた。	B
地域連携	地域共同防災訓練を計画し、地域の一員としての自覚を育てます。 また、教育ボランティアを募集し、まちの力を生かし、まちを大切にすることを育みます。保護者や地域の見守り隊の協力を助け、児童の登下校を含めた安全の強化に努めます。	感染症対策を考慮し、地域と関わる内容が大幅に削減されたため、地域の一員としての意識を育てるのは難しくかった。 各教科・領域の活動で教育ボランティアの方に活躍していただき、まちの力を生かすことができた。 保護者や地域の見守り隊に加えて、職員による輪番も強化し、児童の登下校の安全の強化に努めた。	C
いじめへの対応	組織の中に「いじめ防止対策委員会」を位置づけ、情報の共有化と複数での対応を迅速に行えるようにします。児童の心の動きをよりとらえられるように、職員の研修や、「YPアセスメント」や「横浜プログラム」を活用した児童への支援を行います。	定期的にだけでなく、状況に応じて臨時的「いじめ防止対策委員会」を開催し、事案に対して、迅速かつ複数の職員での丁寧な対応を行った。また、学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携を行った。児童の心の動きをとらえるための職員研修や情報共有を行い、児童に寄り添える支援を目指した。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	主幹教諭を中心とした、校内組織の改革を行い、全ての教員の学力向上を目指します。 また、校内の経験豊富な教職員から学ぶことができるような初任者研修を行います。 メンター研修に関しては、メンターの役割をしっかりと位置付けて、充実した研修を目指します。	主幹教諭を中心とした、校内組織の改革を行い、特に感染症対策が必要な時に、中心となり動くことができた。 また、校内では、メンター対象とした教諭授業研を中心に行い、担当教科・学年などを中心としたサポートをした。 働き方改革では、児童の時間割を見直すなど、組織として動いているところはあるので、引き続き	B
ブロック内評価後の気付き	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に活動を計画したが、感染防止の観点から、公開授業、合同授業研究が中止となり、小中交流事業等も縮小しての実施となった。来年度も感染症対策が必要になると思われるので、対策をした上でどのようなブロック間の交流ができるかを、年度当初から検討していく必要があると思う。	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に活動を計画したが、感染防止の観点から、公開授業、合同授業研究が中止となり、小中交流事業等も縮小しての実施となった。来年度も感染症対策が必要になると思われるので、対策をした上でどのようなブロック間の交流ができるかを、年度当初から検討していく必要があると思う。	
学校関係者評価	・今年度は、コロナでなかなか、ふだんの様子や行事を見ることができませんでしたが、先生方がいろいろ工夫されてがんばっていらつやと理解している。 ・授業については、以前に比べて補助シートや映像などでとても分かりやすくなっていると思う。 ・地域の見守りたいの方と保護者の皆さんがもう少しつながれるような策があるとよいと思う。	・今年度は、コロナでなかなか、ふだんの様子や行事を見ることができませんでしたが、先生方がいろいろ工夫されてがんばっていらつやと理解している。 ・授業については、以前に比べて補助シートや映像などでとても分かりやすくなっていると思う。 ・地域の見守りたいの方と保護者の皆さんがもう少しつながれるような策があるとよいと思う。	
中期取組目標振り返り	通常ではない中、感染症対策など日々の対応を、主幹教諭を中心に校内組織の改革を進んで行い、発信することができた。重点研究会では、授業研が縮小されたが、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。 しかし、体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが実施することができなかった。そして養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることも課題となったため、今後計画して取り組んでいく。	日々変わる感染症対策など日々の対応を、主幹教諭を中心に校内組織の改革を進んで行い、発信することができた。重点研究会では、授業研が縮小されたが、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。 しかし、体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが実施することができず、それに代わるものもできなかった。そして養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることも課題となった。	

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	日々の授業の中で、「言語活動」「自分づくりに関する力」に重点を置き、実施していきます。重点研究の中で、カリキュラムに合った、評価基準を決めていきます。重点研の研究方法を、教員が学びたい(力をつけたい)課題ごとに分かれ、年間を通して授業研を積んでいきます。これからの時代で活躍する子どもを育てることを考え、教員も学びを考えていけるような体制を意図的に作っていきます。	「自分づくりに関する力」ではさまざまな教科で推進校としての取り組みをすることができた。重点研究会では、チームごとに分かれての研究は、感染症予防のために予定通り行うことができなかった。しかし、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。技能教科を中心とした評価の作成を行うことができた。	B
豊かな心	5校ブロックで人権に対する共通意識をもてるよう研究授業や研修を行います。人権意識を高めるために授業を通して子どもの個の育成に取り組みます。人権週間では、全学年、人権について年間での取り組みを発表できるよう取り組みます。「特別な教科道徳」の時間だけでなく他教科やあいさつ運動等の教育活動を通して、互いに認め合い、相手を思いやることのできる子どもを育てます。	金沢ブロックで人権に対する共通意識をもてるよう研究授業や研修を行いました。感染症対策をした上での実施でしたが、開催することができてよかったです。また、人権週間では各学年のテーマに沿って、人権について深く考えることができました。挨拶運動も発表が行うことができ、自発的に挨拶運動をする児童が出てきており、挨拶の輪が広がりました。	A
健やかな体	体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指します。養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させるために、特活「学級活動」に合わせて取り組めるようにしていきます。	体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが、感染症予防対策のために、実施することができなかった。養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させるために、特活「学級活動」に合わせて取り組めるようにしていきます。	C
特別支援教育	年度当初に児童理解研修を行い、また、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、特別な支援が必要な子どもの現状について校内研修を行い理解を深めます。 特別支援コーディネーターを中心に情報交換を密に行い、共通理解を図り、適宜指導・支援を行います。 全教職員がチームとして指導・支援を行えるように、打ち合わせ時の情報交換を行います。	担任が作成した個別の支援・指導計画をもとに、年に2回児童理解研修を行った。また、週1回の打ち合わせで各学年からの情報共有の時間を設け、学校全体で共通理解を図った。気になる児童に対して、教職員全体で声かけ等の指導・支援を行うことができた。	A
児童指導	YPアセスメントを活用しながら、子ども達一人ひとりに関する理解を深め、その支援のためのプログラムをしっかりと実施します。 児童支援専任や児童指導部を中心にチームとして対応していきます。また、ケース会議を開き、児童理解に努め、全職員での共通理解を図ります。	年2回YPアセスメントを実施して、その結果を基に学年・学級の状況を把握し、児童の指導・支援に生かすことができた。状況に応じてケース会議を開き、具体的な対応方法について話し合うことができた。また、打ち合わせ時に該当児童の理解を深める時間を設けた。	B
地域連携	地域共同防災訓練を計画し、地域の方と関わりながら訓練を実施することで、地域の一員としての自覚を育てます。 教育ボランティアを募集し、学校の様々な活動でまちの力を生かし、まちを大切にすることを育みます。保護者や地域の見守り隊、職員がそれぞれの役割を担い、児童の登下校を含めた安全の強化に努めます。	防災拠点会議に出席し、今年度は昨年度以上に感染症対策を重視し、地域と関わる内容が全くない状態で防災訓練を実施せざるを得なかった。 一方で、各教科・領域の活動で、たくさんの教育ボランティアの方に活躍していただき、まちの力を生かすことができた。 保護者や地域の見守り隊と学校職員に加え、学校周辺工事の警備員とも協力し、児童の登下校の安全の強化	B
いじめへの対応	常に児童の心に寄り添う支援・指導を目指します。その指導・支援でいかにできるように、専門機関との連携の方法など、職員の専門性を高める研修を行います。 職員一人の判断のみで行動することがないように、複数の職員での対応を行い、内容を検討します。	教職員が事案を見逃さないように意識を高くもち、「いじめ防止委員会」を開く必要があるときには、児童支援専任を中心に関係教職員が集まって開催した。学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、事案に適した専門機関との連携を図り、児童に寄り添いながら支援・指導を続けた。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	「持続可能な学校のあり方を探るモデル事業」へ応募し、児童のよりよい学びと教職員の時間を生み出す工夫をしていきます。 働き方改革を進めていくために、学校運営部に「働き方改革」を位置付け、組織として改革ができるようにしていきます。	「持続可能な学校のあり方を探るモデル事業」に取り組んできました。毎月zoomミーティングを行い先進校の事例を共有してきました。学校経営計画の反省では、働き方改革部門をつくり、働き方改革について話し合いました。日直の負担軽減、会議の時短化など、改	A
ブロック内評価後の気付き	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に、本校で公開授業、合同授業研究、小中交流事業等を行った。小学校や中学校の学校間で相互理解は、感染症対策のために実施が難しかった。しかし、その中でも、授業研のみ行われ、個に対する取り組み、中学校では、個の様子からどんな取り組みができるのか具体的な話になった。 その他に、6年生の中学見学などは中止となったが、日々の取り組みを視聴することができ、入学前の小中の規範意識の育成と連携を図った。	ブロック内で「小中の9年間で取り組む人権教育」と「小・中、小・小の緊密な連携」を目標に、本校で公開授業、合同授業研究、小中交流事業等を行った。小学校や中学校の学校間で相互理解は、感染症対策のために実施が難しかった。しかし、その中でも、授業研のみ行われ、個に対する取り組み、中学校では、個の様子からどんな取り組みができるのか具体的な話になった。 その他に、6年生の中学見学などは中止となったが、日々の取り組みを視聴することができ、入学前の小中の規範意識の育成と連携を図った。	
学校関係者評価	少人数の指導に力を入れている点が評価できます。一人一人の個に合わせた指導により、子どもたちが、落ち着いて授業に取り組んでいる様子が見られます。また、150周年に向けて、長期を見据えた活動ができていのも良いと思います。 自分が育った環境を考えると、長期休みの前に学習に一段落がつく、3学期制のほうがよいのではと考えます。「春の運動会」が「イメージ」で、今後、検討していただけたらと考えます。・コロナ対応の中、昨年度の経験を生かしながら、教育活動を行うことができたと思う。特に、9月からのタ	少人数の指導に力を入れている点が評価できます。一人一人の個に合わせた指導により、子どもたちが、落ち着いて授業に取り組んでいる様子が見られます。また、150周年に向けて、長期を見据えた活動ができていのも良いと思います。 自分が育った環境を考えると、長期休みの前に学習に一段落がつく、3学期制のほうがよいのではと考えます。「春の運動会」が「イメージ」で、今後、検討していただけたらと考えます。・コロナ対応の中、昨年度の経験を生かしながら、教育活動を行うことができたと思う。特に、9月からのタ	
中期取組目標振り返り	日々変わる感染症対策など日々の対応を、主幹教諭を中心に校内組織の改革を進んで行い、発信することができた。重点研究会では、授業研が縮小されたが、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。 しかし、体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが実施することができず、それに代わるものもできなかった。そして養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることも課題となった。	日々変わる感染症対策など日々の対応を、主幹教諭を中心に校内組織の改革を進んで行い、発信することができた。重点研究会では、授業研が縮小されたが、メンター対象とした教諭授業研を核として、担当教科や学年などを中心としてサポートすることができた。 しかし、体育・健康プランに基づいて、年間を通した「長縄とび」に取り組み、体力の向上を目指したが実施することができず、それに代わるものもできなかった。そして養護教諭・栄養教諭と連携しながら、児童の健康や食育に関する授業を充実させることも課題となった。	